

とちぎ・アシスト!

編集・発行人／栃木県障害者スポーツ指導者協議会

事務局 〒322-0002 栃木県鹿沼市千渡940-2 舟久保方／TEL&FAX.0289-62-7317

2007

8

2号

栃木県内におけるスポーツ活動を通して、
障害者福祉の発展をアシストします。



障害者自立支援法が 平成18年10月より全面施行されました!

障害者スポーツ指導員として、障害者を取り巻く制度の変化にも敏感に対応できるよう、障害者施策の大きな転換となった障害者自立支援法についてポイントを整理しました。

文責：副会長 大橋俊子(県北健康福祉センター健康福祉部長)

【背景】

日本における障害保健福祉施策は、平成15年度から導入された支援費制度により、保護(措置)という方向から、自らが選択する・地域で生活する(自立する)という方向が明確になってきました。

しかし、

- 1 身体障害・知的障害・精神障害といった障害種別ごとに縦割りでサービスが提供されていて、施設・事業体系が分かりにくく使いにくい(支援費制度では精神障害は対象ではなかった)
- 2 サービスの提供体制が不十分な地方自治体も多く、必要とする人々すべてにサービスが行き届かない(地方自治体間格差が大きい)
- 3 支援費制度における国と地方自治体の費用負担ルールでは、増加するサービス利用のための財源を確保することが困難である

というような問題点が指摘されていました。

そこで、制度上の課題を解決するとともに、障害のある人々が利用できるサービスを充実し、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現をめざして、障害者自立支援法が制定されました。

障害者自立支援法のポイント

共通の仕組み(障害者施策の3障害一元化)

- 3障害の制度格差を解消(精神障害も対象)
- 市町村に実施主体を一元化
(窓口:市町村、都道府県はバックアップ)

自立支援を目的(利用者本位のサービス一元)

- 自立支援給付*
- 地域生活支援事業**

公平な負担(安定的な財源確保)

- 国や都道府県の負担責任の強化(義務的負担化)
- 利用者にも応分の費用を負担し、皆で支える仕組み
(定率1割負担:所得に応じた月額負担上限有)
(実費負担:一定の要件を満たした場合負担減有)

**地域生活支援事業

- 自立支援給付以外に市町村が地域の実情にあわせ、障害者の地域における生活を支えるために設定するサービス:相談支援事業・地域活動支援センター・コミュニケーション支援・日常生活用具の給付・貸与事業・移動支援事業等

ノーマライゼーション

障害のある人もない人も共に生きる社会が本来の社会であり、そのような社会づくりを目指すという理念。

* 自立と共生の社会を実現
* 障害者が地域で暮らせる社会に
* ノーマライゼーションの実現

*自立支援給付

- 介護給付:居宅介護(ホームヘルプ)・重度訪問介護
行動援護・療養介護・生活介護・児童デイサービス・短期入所(ショートステイ)
重度障害者等包括支援・施設入所支援・共同生活介護(ケアホーム)
- 訓練等給付:自立訓練・就労移行支援・就労継続支援
共同生活援助(グループホーム)
- 自立支援医療:更生医療・育成医療・精神障害者通院医療費公費負担制度が一つに
- 補装具

※県西・県東・県南・県北・安足健康福祉センターの5ヵ所には、障害者相談支援アドバイザーが1名配属され、市町等への支援、広域管内の体制づくり等の業務を行っています。

耳寄り情報

厚生労働省は、障害者自立支援法の見直しに向けた平成20年度まで特別対策として、1200億円の予算を確保し、下記の取組みを進めるとのことです。

「障害者自立支援法円滑施行特別対策」

3本の柱

- ① 利用者負担の更なる軽減
- ② 事業者への激変緩和措置
- ③ 新制度への移行に対する緊急的な経過措置

- ①利用者負担の更なる軽減:負担感の大きい通所・在宅、障害児世帯を中心とした対策を実施
通所・在宅:1割負担の上限額の引き下げ
軽減対象の拡大(収入ベースでおおむね600万円まで)
障害児については、通所・在宅のみならず入所にも対象拡大
入所:工賃控除の徹底(年間28.8万円までの全額控除):グループホーム・ケアホームも同様
- ②事業者に対する激変緩和措置:日割り化に伴い減収している通所事業者を中心とした対策を実施
旧体系:従前額保障の引き上げ(80%⇒90%)
※旧体系から新体系へ移行する場合についても90%保障の創設
通所事業者:送迎サービスに対する助成
- ③新制度への移行に対する緊急的な経過措置:直ちには移行できない事業者の支援と法施行に伴う緊急的な支援
小規模作業所等に対する助成
移行への改修等経費、グループホーム借上げのための初度経費の助成
制度改正に伴うかかり増し経費への対応、広報・普及啓発等

第6回全国障害者スポーツ大会の報告 水泳監督として参加して

全国障害者スポーツ報告

中級指導員 笠原 恵子



秋晴れの天気に見守られ、兵庫県県下で「のじぎく大会」が行われ、私は栃木県の水泳監督として2度目の参加となりました。

昨年10月12日、宇都宮市のわかさアリーナに集合後、現地に向けて出発。私は全日程を平山貴子選手とともに過ごすこととなり、ホテルでは群馬、滋賀、長崎の選

手団と一緒にしました。

13日は大会前の公式練習日。出来たばかりの新しい会場でドキドキしながら練習を行いました。監督会議ではルール等の確認があり、顔をそろえた各県の代表からはひしひしとした意気込みが感じられました。

14日は開会式です。多くの関係者・ボランティアに導かれ、大きなイチゴの飾りを持っての入場行進。期待を背負ったことと緊張でちょっと疲れてしまったというのが正直な思いです。

15日はよいよ本番です。特に、この日は水泳会場に皇太子

殿下がいらっしゃるということで会場全体の警備は厳重。平山選手は初めての全国大会ということでちょっと緊張したのかスタートで出遅れてしまいましたが、素晴らしい泳ぎで大会初参加を飾ることができました。2種目に参加した駒崎茂選手は、両種目とも思い描いていた通りの大会新で優勝。「すごい!」の一語です。

16日は閉会式。地元の障害者の方たちの歌、演奏、ダンスに加えプロのミュージシャンのコンサート等も行われ、心躍る盛りだくさんのフィナーレとなりました。

大会を通じて感じたことは、引込み思案な平山選手が自分からいろいろなイベントに参加したり、他県の選手に話しかけたり、帰省当日の駅で大学生のボランティアさんとキャップを交換したりと、日増しに自ら積極的に話し、行動できるようになったことです。

大会さんの目的は、記録を目指すことだけではなく、いろいろなことを体験し交流を深めることにもあると思います。「4年後にまた出たい!」との平山選手の言葉は、この大会に参加して一番うれしい一言でした。

第27回関東障害者卓球選手権大会に参加して

活躍する指導者

芳賀ブロック長 小林 百合子



私は、上記大会に審判員として参加させていただきました。様々な障害を乗り越えてプレーしている選手の皆さんが繰り広げる熱い試合に、審判をする私の気持ちもより引き締まっていったことを覚えています。

関東大会という県外からもたくさんの選手の方々を迎えての大きな大会を運営するためには、たくさんの人の力が必要であることを強く感じました。朝早くから現場にかけつけて会場の準備をする人、駐車場案内をする人、車いす卓球の選手のお手伝いをする人、ゲームの進行を担当する人、記録をとる人、表彰の対応をする人、最後まで残って会場の後片付けをした人など、あらゆる場面で多くの人の協力があったのです。

そして、選手の皆さんが、その多くの人々の協力に感謝の気持ちを持ってプレーしてくれたことに感動しました。

今回は、卓球大会のお手伝いをさせていただきましたが、卓球に限らずいろいろなスポーツで“感動”の場面に会うことができれば良いなと思っています。

指導者として活動を続けて

下都賀ブロック長 小堀 保

これまでも、障害者スポーツの指導や大会における審判など様々な活動をさせていただきました。障害者の方が楽しみながら体を動かしたり、真剣な表情で競技に挑む姿を見ていると、いつも心打たれるものを感じ、自分の活動の励みにもなっています。

今後も、障害者スポーツの指導者として、より多くのシーンで活動を続けていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。



第2回栃木県障害者スポーツ大会の報告

ふれあい広場での活動を振り返って

指導員 勝島 富美子



昨年9月24日に開催された「第2回栃木県障害者スポーツ大会」において、競技の合間に障害者の方々が気軽に短時間で楽しむことができる「ふれあい広場」にスタッフとして参加しました。

前年の大会開催時の「ふれあい広場」は、私たちスタッフが期待していたよりも参加者が少なかったことから、だれでも気軽に参加でき、レクリエーション内容も分かりやすくしようという反省を踏まえ、「ボールで楽しもう」というテーマでゲームを行うことにしました。

その考えの下で選択したのが、体を目いっぱい使ったダイナミックな動きもあり、周りで見ているゲーム内容が分かるキンボールによる「チャレンジ・ランキング」でした。大・中・小とそろえたボールは、会場のどこから見ても目立つようにカラフルなものを採用しました。最大のものは直径122cmもあり、参加された障害者の方は、その大きさに最初は戸惑いもあったようですが、ゲームに夢中になるにつれ時には真剣に、時には笑顔を見せながら思い切り楽しんでいるようでした。その風景を遠くから眺めていた方も足を運んでくれ、多くの方に参加していただき盛況のうちに成功することができた次第です。

印象的だったのは、車いすながらも参加をされた方と、ボラン

ティアの若者との絶妙なコンビネーションでした。大きなボールを全身で受け止めて操ろうとする車いすの方を、その若者が陰ながらそっとフォロー、ゲームが終了したときには一緒に成し遂げた喜びを互いに分かち合う姿が見られ、「これこそ私たちが理想とする障害者と社会との関係」という光景を見ることができた思いがしました。

また、地域の老人会の皆さんが折り紙で作ったキャンディーボックスを200個用意していただき、併せて何人かの方からは運営へのご協力もあり、ボランティア活動に参加することができたことに対して喜んでいただくこともできました。

私にとって、障害者を中心としたボランティア、地域の老人会、そして我々を含めた大会の運営スタッフとの思いやりによるつながりを体感することができたことは、本当に貴重な体験となりました。今後は、このような大会の企画や運営に参加させてもらうことにより、障害者、ボランティア、指導者協議会スタッフの絆(きずな)を深めていくようなコミュニケーションの場を提供することを目指していきたいと思っています。そして我々を含めた大会の運営スタッフとの思いやりによるつながりを体感することができたことは、本当に貴重な体験となりました。今後は、このような大会の企画や運営に参加させてもらうことにより、障害者、ボランティア、指導者協議会スタッフの絆(きずな)を深めていくようなコミュニケーションの場を提供することを目指していきたいと思っています。

ふれあい広場での活動を振り返って

指導員 相田 美智子



昨年開催された「第2回栃木県障害者スポーツ大会」は、心配された台風も去り、秋風がさわやかな9月24日、栃木県総合運動公園において開催されました。

陸上競技場やサッカー場、野球場、トレーニングセンターでは各競技が行われ、ふだんの練習の成果を存分に発揮しようと真剣に競技に臨む選手たちの姿を見ることができました。

陸上競技場西側のサブトラックを会場とした「ふれあい体験コーナー」では、障害者スポーツと車いすスラローム、特大のキンボールを使ったチャレンジ・ランキング、ニュースポーツの各種目が行われました。

私が担当したニュースポーツのコーナーでは、グラウンドゴルフ、ストラックアウト、バグジー、ディスコンなどを参加者と一緒

にしましたが、初めて体験したグラウンドゴルフでは器用にコースを回る人、なかなかゴールできずにホールポスト付近を行ったりきたり人も見られました。

ストラックアウトではディスクをうまく飛ばすことができなかったり、無理やり投げようとする人もいましたが、中にはパーフェクトで数字を抜く人もいて大変に驚かされました。

バグジーは、離れたボードにビーンズバッグを投げ入れるゲームです。ゲーム参加者に合わせて距離を調整できることもあって繰り返し挑戦する人も何人かいて、笑顔のをぞかせながらも真剣に夢中に挑む姿は、とても微笑ましい光景として脳裏に残っています。

大会に参加した選手やそのサポートの方、ボランティアの皆さんなど、「ふれあい体験コーナー」に足を運んでくれた皆さんが楽しみながら見せた笑顔はとても印象的で、これからも多くの参加者と交流できることを願っています。

第2回栃木県障害者スポーツ大会「ふれあい広場」の風景



標的の穴を目掛けて投げてみよう



そっちへ行くぞ! てもどこへ飛んでいくのやら



やさしく投げればこぼれないよ



思い通りにはなかなか進みません



ボールを下に落とさないように



キンボールに空気を入れて準備OK!

平成18年度 栃木県障害者スポーツ指導者協議会研修会

研修会

研修部長 渡辺 みゆき

平成18年度研修会は、平成19年2月11日に開催いたしました。ルナ・イソル／ライブビジョンネットの高橋紀子代表を招き、「障がい者・高齢者の生活に密着したレクリエーション」をテーマとしての講演で、県内の障害者スポーツ指導員や一般から多くの参加があり、生活に密着したレクリエーションに対する関心の深さがうかがえました。

研修会社会福祉士、介護福祉士、認定心理士でも高橋代表の講演は、障がい者や高齢者の生活の現状を踏まえた内容で、非常に意義深いものでした。

日本国民全体のレクリエーションのイメージがどんなものであ

るかを考え、一方、本当の意味でのレクリエーションとは何かを探っていくなど、耳を傾ける参加者も大いに関心を抱いた様子で、盛んにメモを取る姿も見受けられました。

高橋代表は、今後のあり方として従来の集団で行なう「ダンス・ソング・ゲーム」ではなく、障がい別や男女差、年齢等、相手に合わせたテンション、タイミングを図ること。つまり、個人に合わせた支援の重要性を説明して下さいました。私たち指導員が、常に「心地良い援助とは何か」という思いを忘れずに、更なる研さんを積んでいかなければならないと、改めて感じさせられた研修となりました。

研修会のひとこま



高橋代表の話は興味深いものばかりで、皆熱心に聞き入っていた



高橋紀子 代表

隣の人と2人で楽しみながらの体操



障がいの程度を意識した手足の運動等も実践

向上心を抱かせる指導を

活躍するアスリート



車いすバスケットボール
増淵 倫己選手

栃木県内には、障害者スポーツの各種目において、全国大会及び国際大会に参加して好成績を収めているトップアスリートがたくさんいます。「とちぎ・アシスト」では、そのトップアスリートの皆さんにインタビューし、障害者スポーツに取り組む意気込みや意義、そして指導者の方とのかかわり方などお聞きしていきたいと考えています。

第1回は、「フェスピック クアラルンプール大会」に車いすバスケットボールの日本代表として出場した増淵倫己選手です。

—なぜ、車いすバスケットボールをやっているのでしょうか。

増淵 車いすバスケットを始めて4年目になります。自分は、健常者のときにもバスケットボールをやっていて、最初は、障害者スポーツは大したことはないだろうとなめていました。

ところが、やればやるほどすごいプレーヤーと出会い、その人たちと接することによって車いすバスケットにはまっていったのです。更に、自分の可能性を確かめていきたいという思いにも駆られ、より高いレベルを肌で感じたいという意識も強まり、車いすバスケットという競技に積極的に挑むようになったのです。

—どのような気持ちで競技に臨んでいますか。

増淵 バスケットボールはゴールにボールを入れることを目的とするスポーツです。でも、下手な鉄砲も数打ちゃいいというものではないと思うので、どうやれば確実にゴールに入れることができるのかを考えながらプレーするように心がけています。

スポーツ選手は、いかに動かかなどをきちんと考えることが必要なのではないでしょうか。考えながらプレーすることでプレーの幅も広がり、練習では出来なかった作戦がゲーム中に実行できるといった副産物も生まれるのだと思います。

—障害者スポーツの指導者に求めるものは？

増淵 とにかく、プレーヤーに向上心を抱かせるように取り組んで欲しいと思います。その上で、プレーヤーの目指すところが何なのかを判断できるようになればなおいいのではないのでしょうか。

以前会った指導者に、「いい監督なんていない」と言われたことがあります。指導者となる人の教えはプレーヤーの受け止め方次第で、「いい監督」にも「悪い監督」にもなるということで、いい指導者になることではなく、プレーヤーの向上心をはぐくむ思いを大切にしてほしいですね。

自分が指導者の立場だったら、まず心に響く指導ということを中心に、その上で自分が車いすバスケットで経験したことや身に付けたことを教えていければと考えています。今は、その幅を広げているところなのではないかと感じています。



熱い戦いを繰り広げる
車いすバスケットボール

挑戦者発→指導者と目指すゴール

研修会

駒崎 茂



講話をいただいた駒崎茂選手

5月27日に行われた平成19年度総会終了後、第6回全国障害者スポーツ大会の水泳50メートル平泳ぎで新記録を樹立して金メダルを獲得した駒崎茂選手による講話をお聞きました。

「挑戦者発→指導者と目指すゴール」を演題としたお話は、駒崎選手がトップアスリートとして活躍するに至るまでの実体験を踏まえて進められ、障害者スポーツ指

導員一人ひとりにとって、とても意義のある内容でした。

駒崎選手は、これまでの選手生活の感想として「自分の障害は重いものだと思っていたが、周りに目を向けると(自分の障害は)軽いと感じた」「体には使える部分がたくさん残っている」「記録はもとより、大会に参加することでいろいろな人とふれあえ、普段体験できない事が体験できる」と話し、スポーツを通して充実した生活を過ごしていると感じさせてくれました。

また、「栃木県内で水泳クラブと立ち上げたい」と、今後の抱負も口にし、障害者が楽しめるスポーツ環境の整備にも目を向けているようでした。

「とちぎ・アシスト」第2号 発行によせて 指導員としてまだまだ勉強

事務局長：舟久保津世志

宇都宮市のサン・アビリティーズでは、車いすバスケットボールや栃木県発祥の競技であるサウンド・テーブル・テニス（STT）等の練習が盛んに行われており、世界レベルの選手の利用も多いそうです。自分は、その練習風景を見させていただくことも多かったです。自分も感じるのは、「障害者スポーツ指導員としてまだまだ勉強しなければならないことがたくさんある」ということで、指導員として日々精進する心構えを持って活動に臨んでいこうと考えています。

平成19年度は、栃木県内において、5月には車いすバスケットボールの全国障害者スポーツ大会予選が行われました。事務局では、上記大会の模様などをお伝えする他、今後の大会等の情報もご紹介してい

きたいと考えております。

私は、前年度から事務局を引き継いだのですが、仕事との両立がなかなかままならず、皆様のご協力の下で活動を続けております。市町村への指導員の紹介、栃木県障害者スポーツ大会の「ふれあい広場」の手伝い等、これからも地域での障害者スポーツ・高齢者のレクリエーション指導依頼等が多くなるかと思っておりますので、各指導員の皆様の得意な種目を早急に把握し、今後の指導員の育成に努めたいと考えています。

当協議会の活動には、会員の皆様のご協力が必要不可欠ですので、今後ともよろしくお願い致します。

また、ご意見等がございましたら、事務局までご連絡願います。

指導協だより

◆栃木県障害者レクリエーション・スポーツ交流会（仮称）の準備委員を募集します！

当協議会事業部では、障害者がスポーツを心より楽しめる計画や資格を取得した会員の資質向上を図れるような活動を進めていきたいと考えております。

そこで、この度、会員の皆様と障害者がレクリエーションやスポーツを通して交流を深めるとともに、指導者としての資質向上を図ることを目的として標記交流会を次年度以降開催したいと考えております。

障害者スポーツ指導員の資格を有効に活用し、ともに楽しく活動していきましょう。

<連絡先> 電話 090-1997-4067(舟久保まで) ※電話は、9～12時をお願いします。

◆第3回栃木県障害者スポーツ大会ボランティアの募集

【期 日】平成19年9月30日(日)

【場 所】県総合運動公園、県体育館、とちぎ福祉プラザ

【内 容】レクリエーション・スポーツの指導

【申込み】8月24日(金)までに上記連絡先へ

編集後記

[K.N]

皆様のご協力の下、とちぎ・アシスト2号を発行することができました。当初の予定より発行がかなり遅れましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。とちぎ・アシストは、「栃木県の障害者スポーツ指導員の皆様により充実した活動をしてほしい」という願いを込めての編集を心がけており、今後も継続して発行していきたいと考えております。併せて、より一層の内容充実を図っていくつもりであり、各会員の皆様にも積極的に編集作業にかかわっていただきたく、ご協力のほどよろしくお願い致します。